

平成 25 年度愛知県病院薬剤師会通常総会 議事録

1. 開会の辞

青山理事の司会により、参加者 148 名で定刻通り総会が開催された。開会の辞として、近藤副会長より平成 25 年度通常総会を開会する旨宣言された。

2. 会長挨拶

昨年度は、「愛知県病院薬剤師会」50 周年ということで、2 月 10 日に記念式典を開催し、また、50 周年記念誌も発刊させて頂くことができました。式典には藤井議員、北田日病薬会長をはじめ、医師協会、看護師協会などいろいろな先生方に参加して頂き、病院薬剤師会について御理解頂く良い機会になったと思っています。中でも、私たち病院薬剤師を取り巻く環境が大きく変わり、院内外にアピールしていかななくてはならないこの時期に、大村愛知県知事に御参加頂くことができ、大変良かったと思っています。また、まもなく皆様のお手元に届く愛知県病院薬剤師会創立 50 周年記念誌の発刊を機に、膨大な資料をまとめることを通して諸先輩方の足跡をたどることができ、私たちも先輩方に恥じることなく活動していかなければならないと再認識しました。

昨年の通常総会では、「平成 24 年は病院薬剤師にとって特別な年になる」というお話をさせて頂きました。6 年制薬剤師の第一期生の誕生、病棟薬剤業務加算の実施などがありましたが、昨年度を振り返ってみていかがでしたでしょうか。一年では大した変化はないと言われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちを取り巻く環境が着実に変わりつつあるのは事実であり、むしろ変えていかなければならないと思っています。そのためには志を同じくした仲間を増やす必要があります。その一つとして、病院実務実習を通してその志を学生に伝えていくことが重要だということは、皆様も同じ考えかと思えます。愛知県病院薬剤師会として、病院実務実習が始まった年にワークブックを作成しました。そしてそのワークブックも今年度改訂版を発行させて頂くことが出来ました。現在、ワークブックは 7 割程度の病院で使用されていると伺っていますが、もっと多くのご施設で使って頂きたいと思っています。

また、病院薬剤師会として情報共有していきたい、また新しい情報をその都度伝えていきたいと思っているため、ホームページ委員会の先生方のご協力で、ホームページをリニューアルして頂きました。今後も情報を発信していきたいと思っています。

愛知県病院薬剤師会は会員のための会ですので、今後も皆様と一緒に考えて進めていきたいと思っています。本日は、24 年度を振り返り 25 年度に活かせる時間を一緒につくれたらと思います、と締めくくられた。



3. 来賓挨拶

会長挨拶に続いて来賓挨拶では村松章伊 愛知県薬剤師会副会長、大原直樹 金城学院大学薬学部長が、それぞれ御祝辞を述べられた。

(村松先生)

愛知県病院薬剤師会通常総会の開催おめでとうございます。

初めて出席させていただきますが、若い先生が大勢いらして嬉しく思います。どんな組織でも、若い人がいない組織は必ず衰退します。若い人が多いこの薬剤師会は、これからも発展的に活動されていく団体なのだと思います。

現在、我々薬剤師を取り巻く状況は非常に厳しくなっています。マスコミでも言われているように、医薬品のインターネット販売が無法地帯になっていますが、OTC だから関係ないという考え方は持たないで頂きたい。今は電子処方せんを解禁というところまできており、このまま許しては薬剤師はいらなくなってしまいます。「ネット販売で事故は起きていない」と言う人たちもいますが、例えば一万件、十万件の中の一件でも、事故が起きたその人にとっては100%です。事故を防ぐための安心安全はただではありません。そのことを訴えながら薬剤師の権益は守っていきたいと思います。本日の特別講演では、土屋先生よりそういう気持ちが伝わる講演をして頂けると思っています。



(大原先生)

愛知県病院薬剤師会通常総会開催おめでとうございます。初めて出席させていただきます光栄に思っております。大学での薬学教育に携わっておりますと、先生方との接点はやはり実務実習です。先生方にはひとかたならぬ御助力を頂きましてありがとうございます。この場をかりて改めてお礼を申し上げます。

今回の国家試験は少し難しかったようです。6年制の2年目であり内容もブラッシュアップされていました。特に、実習を通じて先生方から学んだことをしっかり理解しているかどうか問われるような問題が出題されており、私ども教員としても、実習に出るまでに少しでも高い知識を身につけさせなければならないと改めて認識しています。実習は先生方の知識・技量を直にみて学習する場であり、社会が提供するひとつの人間づくりの窓口ではないかと考えています。薬剤師は医療チー



ムの一翼を担い、地域の人に溶け込んで信頼され尊敬され続けなければなりません。先生方と考えを共有し協力し、次世代の薬剤師、薬と人を知る若者をつくりたいと思っています。育った若者がやがて愛知県病院薬剤師会を背負い、愛知県から発進した薬剤師が全国に、社会全体に貢献し、我が国の医療を進展させることを夢見ています。

最後になりましたが、貴会のますますのご発展をお祈りして祝辞とさせていただきます。

4. 祝電披露

日本病院薬剤師会会長より

株式会社薬事新報社代表取締役社長より

5. 愛病薬功労賞贈呈

愛知県病院薬剤師会功労賞の表彰では、医療法人清水会相生山病院薬剤部長 近藤喜博 先生、春日井市民病院薬剤部長 松原弘幸 先生に、それぞれ愛病薬功労賞が贈呈された。



6. 議長選出

議長選出については、司会者より一任の許可を求める発言があり、賛成多数で承認され、議長に社会保険中京病院 磯貝 聡氏と、海南病院 杉浦洋二氏が選出され、会の進行は議長に委ねられた。

7. 議事

第一号議案 平成 24 年度「事業報告」

山田副会長より、配布資料をもとに総会報告、研修会・学会・講演会等報告および理事会報告が行われた。また、各専門委員会委員長より専門委員会報告が、各支部長より支部報告がそれぞれ行われた。事業報告の詳細は以下の如くである。

【配布資料の通り】

第二号議案 平成 24 年度「決算報告」

稲垣会計理事より、平成 24 年度決算報告が行われた。

第三号議案 平成 24 年度「監査報告」

河合監事より、平成 24 年度会計及び業務の監査を実施した結果が報告され、提出された諸帳簿と業務内容は有効かつ正確に処理されており、収支決算は適正であると認められた。

以上、第一号、第二号そして第三号議案について議長より質問、追加発言を求めたところ、特に質問、追加発言はなされなかった。引き続き、議決を行ったところ、全て賛成多数で承認された。

第四号議案 平成 25 年度「事業計画の提案」

勝見会長より、配布資料を基に詳細な事業計画案の説明が行われた。事業計画案の詳細は以下の如くである。

【配布資料の通り】

第五号議案 平成 25 年度「予算の提案」

稲垣会計理事より、平成 25 年度予算案の詳細な報告が行われた。

第六号議案 愛病薬「会則・施行細則・表彰規定」の改訂

三浦総務理事より、愛病薬「会則・施行細則・表彰規定」の改訂が提案された。

以上、第四号、第五号そして第六号議案について議長より質問、追加発言を求めたところ、特に質問、追加発言はなされなかった。引き続き、議決を行ったところ、全て賛成多数で承認された。

8. 報告事項

第一号 平成 25 年度「日本病院薬剤師会代議員会」の報告

近藤代議員より、2 月 23 日（土）に東京で開催された第 46 回臨時総会の詳細な報告が行われた。（詳細は、日本病院薬剤師会 第 46 回臨時総会の報告書を参照。）

9. 役員選挙等

第一号 平成 25・26 年度「日病薬代議員及び補欠の代議員」の改選

宇野選挙管理委員長より、日病薬代議員及び補欠の代議員の改選が行われた。

10. 議長退任

11. 退任役員を紹介 退任役員挨拶

勝見会長より、平成 24 年度で退任される野村敏治理事に花束の贈呈が行われた。



12. 特別講演

柘植理事の司会により、特別講演が開催された。特別講演座長の勝見会長より、講師の日本病院薬剤師会副会長 土屋文人先生が紹介され、「医療安全において病院薬剤師の果たすべき役割」という演題でご講演頂いた。その内容は以下のとおりである。

厚生労働省が平成22年に出した医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の中に、薬剤師が取り組むべき業務例として「①薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコルに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施すること。②薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等について、医師に対し積極的に処方を提案すること。」等が挙げられている。これは、薬剤師のこれまでの実績を医師も認めているからこそ出た通知であり、薬剤師が今こそやらなければいけないことであるが、まだ腰がひけている印象がある。薬剤師がチーム医療の一員として明記されたのは平成4年であるが、それ以降も薬剤師が病棟にいない状態が多かった。そのような状況の中で、薬剤師をチーム医療の一員として実体をもって成り立たせようと認められたのが病棟薬剤業務加算である。薬剤師はこのようなチャンスは二度とないと思って、薬剤師が何のためにいるのかも一度よく考える必要がある。



最近発生した医薬品関連医療事故の中に「ノルバスク」と「ノルバデックス」の処方間違いがあった。これは名称類似薬として周知されている薬剤であり、システム上の対策がとられているにも関わらず発生しており、薬剤師による持参薬の鑑別や薬剤管理指導業務が100%でないことも関与していたと考えられる。一度処方が受け入れられるとその情報は再確認されない傾向が強いことから、持参薬の取り扱いについて患者背景と持参薬の評価に基づく処方設計と提案を行っていくべきである。薬剤鑑別は薬剤師でなくても可能であるが、処方提案は薬剤師に期待されているのである。

医療安全というと「取り違え」などを思い浮かべることが多いかもしれないが、薬剤師が果たすべき医療安全は「医薬品の適正使用」である。医薬品の安全性を考えると、医薬品そのものの安全性（物の安全）と、使用に際する安全性（使用の安全）をどう確認するかが重要である。近年ではドラッグ・ラグ解消のために、新薬の承認プロセスが事実上簡易化された。その一方で、新薬は効き目の鋭い薬が多くなってきており、今までのようなつもりでいると有害事象による事故が増加する可能性が考えられる。市販後調査の重要性が増大しており、発売開始後1年間は特に注意が必要と言える。「物の安全」「使用の安全」「薬害防止」の3つの視点でしっかりモニタリングできるのは薬剤師しかいないと考える。その一つとして定期的な検査の実施の確認についても薬剤師が積極的に行うべきである。

平成22年の「特掲診療科の施設基準等及びその届け出に関する手続きの取り扱いについて」で

は、医療機関の医薬品情報管理室において、院内で発生した医薬品に関わる副作用、ヒヤリハット、インシデント等の情報等を積極的に収集し、一元的に管理する等の要件を満たした上で、「医薬品安全性情報等管理体制加算」を診療報酬に加算できるとされた。そして平成 24 年度からこの加算は廃止され、「基本診療科の施設基準等及びその届け出に関する手続きの取り扱いについて」（平成 24 年）により、一元管理等の要件は、新設された「病棟薬剤業務実施加算」に引き継がれている。しかし、加算の届け出がなされている施設でも、医師・薬剤師・看護師等が把握した副作用情報が医薬品情報管理室に報告されておらず、副作用報告件数はなかなか増えてこない。医薬品の適正使用を行うためには医薬品情報を適切に扱えなければいけない。そのため薬剤師が病棟業務を行う上で DI との連携は不可欠である。また、現在 PMDA（医薬品医療機器総合機構）から医薬品の適正使用に関する様々な情報が発信されているが、医療機関あたりのメディナビ登録者数は 1 施設あたり 2 を下回るという低さである。現在は何人でも登録可能であるので、各医療機関において登録を行うよう啓発活動を実施して頂き、情報を有効活用してほしい。

医療安全における病院薬剤師の果たすべき役割は「安全・安心かつ良質な薬物療法の確保」につきる。調剤は「対物業務」ではなく「対人業務」であることを再確認するとともに、当たり前に行ってきた業務をもう一度原点に戻って考えることが必要である。そして法が想定（期待）している薬剤師の役割をきちんと果たすことが求められている。

土屋先生のご講演を拝聴し、我々病院薬剤師に期待されていること、やらなければならないことを改めて考える良い機会となった。病棟業務や 6 年制薬学教育など、私たちを取り巻く環境が日々変化していくなかで、薬剤師の本質を見失わないようにしながら、より良い医療の実現に貢献していきたいと思った。



13. 閉会の辞

閉会の辞として、木村副会長より平成 25 年度通常総会を閉会する旨宣言された。

平成24年度決算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

収入の部				支出の部			
項目	予算	決算	摘要	項目	予算	決算	摘要
日病薬会費	16,300,000	16,300,000	8,000×2030	日病薬会費	16,300,000	16,300,000	8,000×2030
合計	16,300,000	16,300,000	4,000×16	合計	16,300,000	16,300,000	4,000×16

収入の部				支出の部			
項目	予算	決算	摘要	支部活動費	予算	決算	摘要
前期より繰越	10,867,014	10,867,014		総会費	450,000	488,375	総会1回
愛病薬会費	5,489,000	5,676,500	正会員10,000×1 正会員2,000×1960 AB会員5,000× (70+11) C会員15,000 ×88 正半期会員1,000×15 A半期会員2,500×1 他県より(正)2,000× 2	理事会費	800,000	1,115,398	理事会8回と理事の会議
日病薬交付金	2,639,760	2,756,720	1,360×2027	事務局活動費	700,000	813,095	会計175,268 総務637,827
日病薬連交付金		119,500		委託費	910,000	538,780	愛知県薬剤師会328,780 スプケノジコム210,000
研修会参加費	2,700,000	2,767,000	新人846,000 病院診療所1,921,000	研修会費	3,940,000	4,119,470	新人274,960 テルモ0 病院診療所1,921,000 新人テキスト1,443,625 薬相談会15,500 ワークショップ 360,000 ワークブック 104,385 薬学生73,712 調査171,330 学術138,670 学術講演会156,570 ホームページ85,265 精神273,504 編集313,197 オンコロジー648,850 中小病院160,726 HPサーバ-更新料189,000
委員会会費等	360,181	426,335	薬学生28 調査40 学術0 ホームページ0 精神160,532 編集0 オンコロジー203,720 中小病院1,015 学術講演会61,000	委員会費	5,176,735	2,210,824	
支部費等	206	184	名古屋東58 名古屋西13 名古屋南14 名古屋北10 尾張西30 尾張中30 知多0 西三河0 東三河29	支部活動費	804,672	256,191	名古屋東910 名古屋西1,166 名古屋南1,680 名古屋北3,750 尾張西138,882 尾張中21,320 知多0 西三河2,556 東三河85,927
50周年記念事業		2,645,000	連盟補助金2,000,000 参加費555,000 お祝い金90,000	50周年記念行事	1,500,000	4,801,925	
補助金	600,000	560,000	総会補助金200,000 WS補助金360,000	出版費	6,000,000	4,762,464	会誌、名簿
広告料	5,000,000	3,320,000	広告料3,320,000	雑費	1,000,000	1,680	郵便手数料420 日病薬振込手数料420 会費一括手数料840
その他		28,489	県薬祝い10,000 利息896 連盟利息165 著作権手数料628 花代16,800	支出計	21,281,407	19,108,202	
収入計		18,299,728		次期繰越金	6,374,754	10,058,540	
合計	27,656,161	29,166,742		合計	27,656,161	29,166,742	

繰越金内訳	郵便局	3,721,032
	銀行	3,573,471
		762,487
	地区繰越金	605,728
	委員会繰越金	1,080,081
	現金	192,782
	総務	122,959
	合計	10,058,540

【別途積立金】

平成22年度	
定期預金(郵便)	10,000,000
定期預金(銀行)	10,127,978
合計	20,127,978

平成24年度監査報告

私達監事は、平成24年度会計及び業務の監査を下記のとおり行いました。その結果について報告します。

記

1. 監査基準日 平成24年4月1日～平成25年3月31日
2. 監査実施日 平成25年4月10日
3. 監査意見

提出された諸帳簿と業務内容を監査した結果、有効且つ正確に処理されており、収支決算は適正であると認めます。

平成25年4月10日

監事 河合 優

監事 村岡 勲



平成25年度予算書 (案)

平成25年4月1日～平成26年3月31日

収入の部			支出の部		
項 目	平成25年度	摘 要	項 目	平成25年度	摘 要
日病薬会費	16,264,000	8,000×2033	日病薬会費	16,264,000	8,000×2033
合 計	16,264,000	(正1961+A72)	合 計	16,264,000	
収入の部			支出の部		
項 目	平成25年度	摘 要	項 目	平成25年度	摘 要
前年度より繰越 愛病薬会費	10,058,540 5,652,000	正会員2,000×1961 AB会員5,000×(72+10) C会員15,000×88	総会例会費	500,000	総会1回
委員会費	390,090	会員0 薬学生0 調査40 学術0 ホームページ 精神180,050 編集0 オンコロジー150,000 中小0 学術講演会60,000	理事会費	1,100,000	理事会8回と理事の会議3回
支部活動費	24	名古屋東0 名古屋西10 名古屋南14 名古屋北0 尾張西0 尾張中0 知多0 西三河0 東三河0	委員会費	3,039,700	会員0 薬学生300,000 調査252,000 学術300,000 ホームページ271,200 HP P D F 100,000 HPサーバー更新料94,500 精神232,000 編集500,000 オンコロジー350,000 中小240,000 学術講演会200,000 学術講演会備品200,000
研修会費	2,767,000	新人846,000 病院診療所1,921,000	支部活動費	848,093	名古屋東1,500 名古屋西2,000 名古屋南2,000 名古屋北4,037 尾張西336,000 尾張中300,000 知多0 西三河2,556 東三河200,000
日病薬交付金	2,756,720	1,360×2027	研修会費	3,395,960	新人274,960 病院診療所1,921,000 ワークブック700,000 その他500,000
補助金	600,000	WS400,000 総会200,000	事務局活動費	2,000,000	会計250,000 総務550,000 人件費(パート)1,000,000 パート用パソコン200,000
広告その他	4,000,000		委託費	350,000	県薬350,000
			出版費	6,000,000	50周年記念誌1,102,500含む
			雑費	1,000,000	
			小計	18,233,753	
			次期への繰越	7,990,621	
合計	26,224,374		合計	26,224,374	